

対比や言い換えに注意しながら読み進めよう

次の文章は、筆者が『モモ』などの物語を例にして、「時間」について書いた文章です。これを読んで、後の問いに答えなさい。(小原信『ファンタジーの発想』より)

本文

忙しいことが充実していることであり、何かをすることは無駄には生きていないことのあかしだと錯覚して動きまわる人間の習性は、いまに始まったわけではない。いったい生きてはたらく働きとは何なのか。人間にとって無駄とは何なのか。それは本当に人間にとって人間らしい生き方になっているのかの判断はむずかしい。

まずやっかいなのは、時間をはかるものは時計であって時計ではないということである。

*『モモ』においては時間と時計は区別して考えられている。問題は量としての時間ではなくて、中身のある生きた充実した時間がそのあいだにあったのかどうかである。ただ流れるだけの時間、心がそこにこもっていない時間は、自分にとって心を感じなかった時間であり、それはなかったのと同じくらいかるい時間なのだ。

質としてとらえられた時間は、無駄に見えて無駄でない生きた無駄のことである。これは量としてとらえられた時間が失うだけに終わるのに対して、もどってくることもある生きた時間であると考えてよいであろう。*床屋のフージーや掃除夫のベッポがすべての時間を切りつめて節約しようとしたのはまちがっていた。心感じていた時間があるということはそれだけでも無駄が無駄でなくなるということであり、無駄をして消えたはずの時間も心を感じるころがあればいつかもどってくるということなのだ。

われわれは何年生きていても、どんなに忙しくしていても、もし心を感じなかったら、その時間は無いのと同じことになる。心を感じる時間とは、その間に何かがあって、自分が生きていることを実感することのできる時間である。そういう生きた時間はあまり忙しすぎるとなくなってしまふ。少しの無駄も遊びもなくなると、落ちついてしみじみと何かを考えたり感じたりすることができなくなってしまうのである。

注 *『モモ』……灰色の男たちに盗まれた時間を人間にとりもどした少女モモの物語。

作者はミハエル・エンデ。

*床屋のフージーや掃除夫のベッポ……『モモ』の登場人物。

問

下線部「時間をはかるものは時計であって時計ではない」とありますが、どういことですか。次の□Ⅰ・□Ⅱにあてはまるもっとも適当な言葉を、文中からそれぞれ漢字一字でぬき出しなさい。

時計ではかれるものは時間の□Ⅰで、はかれないものは時間の□Ⅱであるということ。